

新川会通信

第43号

# すまいる

発行  
社会福祉法人新川会

〒930-0362  
上市町稗田字七郎谷 1-32  
Tel (076) 472-1118  
Fax (076) 472-5391  
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp  
HP <http://www.niikawakai.jp/>

発行責任者 久保 進



つつじ苑の近くの畑をお借りして、さつまいもの苗を植えました。秋の収穫が楽しみです。



## 令和元年

### 改めて利用者の 気持ちに寄り添う

つつじ苑施設長 中川 伸治

日頃、利用者さんとともに活動する中、あらゆる場面で「いまだどんな気持ちでいるのだろう」と思うことがあります。「うれしい顔をしているけど何か良いことがあったのかな」「困った表情しているけど何かあったのだろうか」とおもいを巡らせます。

普段の様子においても利用者さんは、自分の気持ちを訴えかけるように何らかのサインを出して表現されているのですが、支援者の考えや思い込みが邪魔をして理解できない場合があります。その時の状況を後になって振り返ると気づかされるが多々あります。

このように利用者さんとの会話や関わりの中でうれしかったことや悲しかったこと困ったことなどいつでも伝えられるように支援者は、その時の気持ちや思いを大切に受けとめ、それぞれの考えや思いに寄り添いその方に応じた支援を行うことで意思の確認や決定を行い、やる気や生きがいにつながっていきます。

元号が『平成』から『令和』にかわり約一か月が経過しました。気持ちを新たにしてお利用者の方の一人ひとりが充実した毎日が送れるようにまた明るい笑顔があふれるよう強く願い皆で力をあわせて実現できるように目指していきます。

**特集**  
**地域生活相談室**  
**サービス等利用計画と**  
**個別支援計画の関係性**  
 室長 野島 真裕美

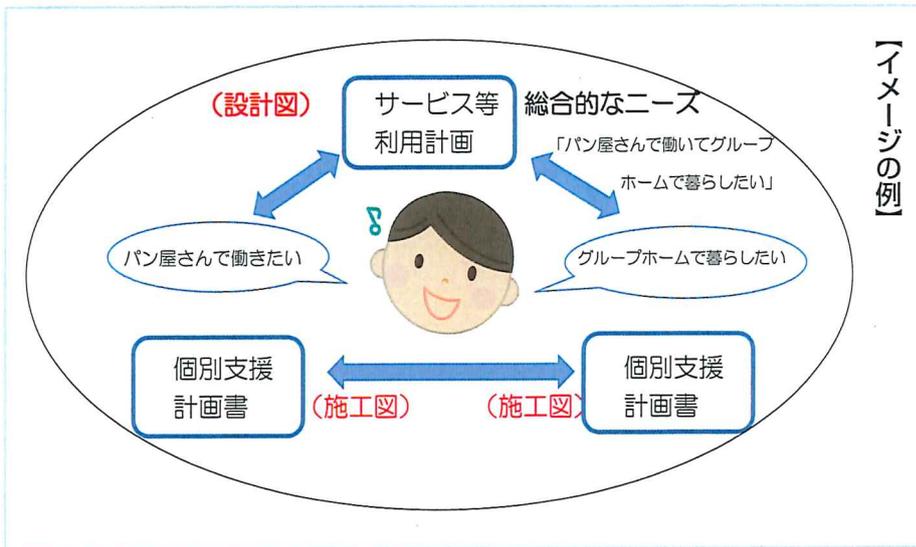
新年度を迎え、新川会などの事業所も、利用者の皆さんの生き生きとした表情を引き出し、本人の望む生活を実現するために、どんな支援内容にしようかと頭を悩ませながら、「個別支援計画」を作成しています。

「個別支援計画」とは、サービス事業所が提供するサービスの適切な支援内容等を検討し具体的に示したものです。

では、この「個別支援計画」の基となる「サービス等利用計画」との関係はどうなっているのでしょうか。

障害福祉サービスを利用する際に、利用したいサービスの支給決定を市町村からもらいます。そこで必要になるのがこの「サービス等利用計画」です。「サービス等利用計画」は、指定相談支援事業者（新川会の各事業所の場合「新川会地域生活相談室」が担当することが多いですが）、サービスを希望する障害者の総合的な

援助方針や解決すべき課題を踏まえ、最も適切なサービスの組み合わせ等について検討し作成するもので、利用者を支援するためのいわば「トータルプラン」であり、「人生の設計図」となるものです。



つまり、「サービス等利用計画」で、生活全般をアセスメントし、本人の願いを中心に、生活や支援の全体像を示し、それを受けて「個別支援計画」で必要なアセスメントをさらに深め、本人の願いをかなえるためにより具体的な支援内容を盛り込むのです。「サービス等利用計画」が設計図なら、「個別支援計画」は施工図となるイメージです。

また、「サービス等利用計画」の定期的な検証（モニタリング）の標準期間について、支援の必要性の観点から標準期間の一部が短くなり、よりきめ細かな相談支援を提供することとなっています。利用者のニーズとサービス内容が合致しているか、また新たなニーズがないか等見直しをします。

新年度を迎えたこの時期、「サービス等利用計画」と「個別支援計画」をあらためて見直し見比べてみて下さい。利用者やご家族の思いや願いがこのどちらにも反映されているでしょうか。



# 四ツ葉園だより

## 還元金外出

昨年度一年間一生懸命に作業や活動に取り組んできたことに対する労いと、来年度への英気を養い今後の励みとするため、活動班ごとに行き先を決めて外出しました。



富山県美術館にて

外出当日、意気揚々とバスに乗り込むと、目的地に想いを馳せて表情を綻ばせる方、隣の方と会話を楽しまれる方、職員に

ボウリングは難しいけど楽しいね



海王丸パークから遊覧船クルーズへ出発!

昼食を確認する方など、利用者さんが外出を楽しみにしている様子が見られ、それぞれの班で社会施設を見学したり周りの景色を眺めドライブを楽しんだり、豪華な昼食を食べたりしました。  
今回の楽しかった思い出を力にして、これからのいろいろな活動に元気に取り組んでいきなと思います。(信清支援員記)

昼食は、刺身定食や麺類、バイキング、焼肉など、活動班ごとに選んだ豪華メニュー！好きなおやつを自分で選んで食べました。



バイキングはどれも美味しそう!

## 贈呈品

三月に、富山県善意銀行様より宮太鼓(一尺三寸)を寄贈していただきました。今後は太鼓クラブでこの宮太鼓を使用し、より一層力を入れて練習していきます。



## お知らせ

四ツ葉園創立当初より男性の利用者さんの髪を整えてくださった「理容堂口」の堂口紀和さんが平成三十年で四ツ葉園理美容から退かれることになりました。長きに渡り大変お世話になりました。ありがとうございます。



# 雷鳥苑だより

## 花見外出

四月八日、十二日の二班に分かれて花見外出に行ってきました。

八日は、常願寺川公園に行ってきました。心地良い天候の下で、桜の並木の中を散歩し、桜の木の下でおやつを食べてきました。大きな桜の木に満開の花はとてもきれいで、利用者の皆さんからも「きれいだねー」と歓声が上がっていました。



花などの春の訪れを感じる花々が咲いていました。公園内には桜がとてもきれいに咲いており、公園内を散策したり、キャッチボールを行ったりしました。利用者の皆さんの楽しい笑顔が桜のように満開でした。帰りには、「また来年も来ようね！」と話されていました。



今年も桜の開花が早かったですが、寒暖の差があり、桜の開花期間が長く、皆さんきれいな花を見ることができて良かったです。来年も楽しみです。

(林主任記)

# 工房よつばだより

## 季節行事

工房よつばでは、年間予定の中に季節の行事や外出も取り入れています。三月一日にひな祭りの会を行いました。由来を聞いたあと、ひな祭りに関する〇×クイズで大いに盛り上がりました。ひな祭りの可愛らしいケーキとコーヒーも皆で食べました。

時には仕事から離れリフレッシュすると共に心を豊かにできればと考え、様々な行事等を定期的に計画しています。生活を送る上で大切な「季節を感じる」ことを目的にした今回の会は、和気あいあいとした雰囲気となりました。



## 新年度スタート

新元号が「令和」になると発表された同日、工房よつばには新しい仲間が一人増え、男性七名、女性七名の計十四名の利用者で新年度がスタートしました。

今年度も皆で頑張ります!



従来の仕事に加え、昨年度より新規の委託作業も始まりました。仕事の幅もますます広がり、皆さん張り切ってそれぞれの仕事に取り組んでおられる姿が印象的です。

今年度も「みんな仲良く、楽しく」をモットーに日々仕事に励んでいけたらと思っています。

(朝岡支援員記)

# さつき苑だより

## 花見外出



四月四日・九日、毎年恒例の花見外出を二班に分かれて行いました。この時期になると、皆さんは桜の花が咲くのを心待ちにされ、花見に行くのを楽しみにしていました。二日間ともとても天気が良く、皆でわいわいとおやつを食べて良い花見になりました。花見を楽しむ皆さんの笑顔は桜にも勝るほどきれいでした。

## ひなまつり・おやつ作り



三月五日 ひな祭り会とおやつ作りをしました。おやつ作りでは食品加工場で制作したリンゴパウダーをまぶしたポップコーンを作りました。ひな祭り会では、ひな祭りクイズを行い、皆さんこぞとばかりに回答し、とても盛り上がりました。女性の皆さんとお雛様で記念写真を撮り、とても楽しいひな祭り会になりました。(酒井友主任 記)

# つつじ苑だより

## ブルーベリーの土の入れ替え作業



三月になり暖かい日も増えてきたので、以前から予定していたブルーベリー苗の植え替えと土の入れ替え作業を行いました。当初、同じ鉢に苗木を二本植えたことに対し、双方の生育の妨げになると教えていただいたからです。

ブルーベリーの苗木は、酸性の土壌を好むため、数年に一度土の入れ替えをする必要があります。また鉢植えにしておくと根が張って根詰まりをおこしてしまうため、この作業はとても効果的なことなのです。

昨年度から「中の庭ブルーベリー園」の園主である桶川克己さんのご指導を仰ぎながら栽培を行ってきました。土の配合割合や肥料の施し方、水管理、剪定等の生育方法を学びながら

近い将来、利用者さんがうれしそうに収穫したブルーベリージャムが店頭に並ぶことを想像しながら栽培育成をしていきたいと思えます。

(中川施設長 記)

### 地域相談室だより

## 障害のある人も ない人もみんな でフライングディスク！

地域生活相談室 支援員  
網谷 知晃



三月十日に富山県総合体育センターで行われた「障害のある人もない人もみんなでフライングディスク！」に参加しました。グループホームに入居している十三名の方が参加され、記録を狙いに来ている方や大会に参加することを楽しみにしている方など、それぞれ

違った意識込みで参加されていました。ディスクを入れる輪に向ける眼差しは真剣で、投げると九枚も入り、この大会に参加して、フライングディスクを通して障害の有無に関係なく、互いに称えあったり一緒に悔しがったりすることで、達成感や次回の大会への意気込みに繋がっていくのだと感じました。



のルートが  
あつたり、  
リラック  
スして投  
げ入れる  
様子があ  
つたりし  
て、応援  
している  
側は、「入  
って！」と本人たち以上に緊張する場面もありました。

### 研修報告

## 看護研究会に 参加して

四ツ葉園 看護師 袁田 早織

今回の看護研究会では医療法人社団藤聖会富山西総合病院の川端康一先生に「誤嚥性肺炎について」摂食嚥下障害について学ぼう」という題で講義をしていただきました。

まず先生が言われたことは嚥下障害を論じる前に「なぜ咽せた？なぜ食べられない？」を分析することが必要との事です。摂食嚥下障害のリスクは、摂食嚥下障害の有無に関わらず、個人的、食物的要因により、誰でも起こりうるのです。そして適切な食事の提供・支援を行う必要があります。

③咽頭の知覚低下④一口量の多さ  
⑤詰め込みなどです。食物の要因では食物の動性に関して①流動性が低い②凝集性が高い③附着性が高い④変形性が低いこれらのことが複合的に影響してきます。以上を踏まえ、何が原因でなぜ起こったかの分析をします。その上でその利用者さんに合った食形態の検討をします。また、摂食嚥下障害のリスク管理として①十分な咀嚼②詰め込み・一口量には注意③嚥下機能に合った食形態選択④窒息は即対応が原則となっています。

食事は皆さんにとって大きな楽しみです。その楽しみを長く続けてもらうためにも各々の利用者さんに合った食形態の選択をし、安全な食生活を送っていただきたいと思います。

